

第7章 教育の質の向上及び改善のためのシステム

本章では、教員の教育活動を示すデータ/資料類の収集蓄積の実施状況、教職員・学生及び学外関係者の意見聴取による教育の質の向上と改善への活用の実態、及びファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施状況（企画、運営、調査等）とその効果などについてまとめる。さらに、教育支援者や教育補助者（TA, RA 等）に対しての研修などの取組状況についても述べる。

7-1. 教育活動の実態を示すデータ・資料の収集と蓄積

教育活動に関わる殆どの情報の収集・蓄積等は、研究科会議・学部教授会の責任の下に、教育・研究協力課等の事務が協力・補佐して行われている。

学部入学試験に係る受験者・入試成績等については、本学の入学試験電算管理委員会の下にデータが蓄積され、本学部の請求に応じ帳票及び電子データにより提供され、合格者判定等に利用する。学部私費留学生特別選抜及び大学院入学（編入学）試験に係るデータは、教育・研究協力課で収集・蓄積され、合格者判定等に利用する。これらのデータから、入学者のデータが抽出されて、教務情報システムに学籍データとして蓄積され、教育・研究協力課に設置されている端末により利用することができる。一般入試によらない研究生、科目等履修生等の非正規学生も、端末からデータを入力しており、これにより、全ての学生の学籍データを教務情報システムにより管理していることになる。

開講する学部専門科目・大学院科目については、学部・研究科教務委員会、学科長・専攻長会議の議を経て、学部は「学生便覧・シラバス」、大学院は「学修要覧・シラバス」の冊子により、学生・教職員へ提供されるが、原稿については、電子データにより蓄積しており、学部シラバスについては、ホームページ掲載に利用している。授業時間割については、学部分は教育・研究協力課で、大学院分については各専攻事務で、作成及び電子データでの蓄積を行い、学部時間割は、ホームページ掲載に利用している。

履修・成績処理については、学部は、平成 19 年後期から京都大学教務情報システムの KULASIS(クラシス)を導入している。学生は、KULASIS に掲載された時間割によりパソコンから履修登録・登録確認を行う。また、個人の時間割、休・補講、学生呼び出し等の各種情報は、パソコンのみならず携帯電話からも確認できる。KULASIS 上に蓄積されたデータから、履修者名簿、採点表が作成され、授業担当者はそれらを容易に入手し、採点登録も行える。休・補講については、教員が KULASIS 上で入力し、データが蓄積される。これらのデータは、予定された帳票以外に、個々のデータの切り出しが可能であり、科目毎の合格率、成績分布等、会議資料等の作成を容易にしている。成績については、教務情報システムに蓄積され、成績表として、学生、指導教員等へ提供される。なお、平成 23 年度から、KULASIS によるシラバスの登録・公開のシステムを導入する予定である。

大学院については、各専攻事務において、履修・成績処理を行い、成績は、教育・研究協力課において集約され、帳票ベースで蓄積される。なお、この帳票については、平成 22 年度から、順次、電子データ(PDF)化され、教務情報システムに蓄積される予定である。

学部生の卒業、及び大学院生の修了に際しては、これらのデータを基に修得単位数一覧が作成され、学部教授会・研究科会議において卒業あるいは修了認定が行われる。

修士・博士の学位論文は、題目と調査委員を研究科会議で承認するが、これらの資料は、教育・研究協力課で作成・保存される。学部の卒業課題研究、修士学位論文は学生が研究を実施した各分野の研究室で保管されており、博士学位論文は、国立国会図書館、本学附属図書館での所定の保管体制に加え、農学研究科図書室で所蔵して、必要に応じ参照できるようになっている。博士学位論文の題目等は、教務情報システムにも登録されるとともに、審査報告書については、本学学術情報リポジトリ KURENAI に登録され、学内外へ公開している。

[分析評]

教育活動に関わる情報は、適切に収集・蓄積され、殆どが電子データ化されることにより、各会議での検討資料の作成が容易になっている。

[資料]

○農学部学生便覧・授業計画 ○農学研究科学修要覧・シラバス ○農学研究科／農学部ホームページ ○京都大学学術情報リポジトリ KURENAI ホームページ

7-2. 学生への意見聴取と自己点検・評価への反映

学部専門科目にかかる学生意見の聴取については、平成 20 年度後期から、原則としてすべての科目について、講義終了時に「学生による授業評価アンケート」を実施している。大学院科目については、指導教員が研究指導を通して、直接意見を聴取している。授業評価アンケートの結果は、それぞれの授業担当教員にフィードバックされており、全科目のアンケート結果集計を報告書として、全教員に配付している。

また、本学部・研究科の講義科目は、殆どが 30 名前後の少人数教育であり、授業・試験中の意見の聴取も、頻繁に行われている。

講義以外での意見の聴取の場として、定期的に学生自治会と懇談を行っている。平成 22 年 11 月には、各学科・専攻から選出された学生と京都大学理事（教育担当）とのキャンパス・ミーティングを、研究科長、学部・研究科教務委員長、教務担当事務職員の同席の下に開催し、出された意見等については、学部・研究科教務委員会等で検討を行っている。

これまで、大学院学生の意見については、幅広く聴取するシステムがなかったため、平成 22 年度に Web アンケートシステム（Web ポスト）を導入し、学部学生も含めて、自由に意見を述べる場を設けた。

[分析評]

学生からの意見聴取が適切に行われており、自己点検・評価に活用されている。

[資料]

○平成 21 年度授業評価アンケート報告書 ○平成 22 年度キャンパス・ミーティング報告書 ○農学部学生自治会規約 ○農学研究科／農学部 Web ポスト

7-3. 学外関係者への意見聴取と自己点検・評価への反映

平成 18 年度に、京都大学農学部卒業生を対象に、アンケート調査を実施した。調査結果は冊子にまとめ、全教員に配布して自己点検・評価に供した。

また平成 21 年度に、学部及び大学院卒業生の就職先を対象としたアンケートを実施して、学外関係者の意見を聴取した。このアンケート結果（第 6 章〈図 6-2〉参照）では、専門分野の教育に関しては全般に期待通りの成果が挙げられていることが窺えたが、専門分野の能力に比較して英語力の不足を指摘する声もあった。ただし、アンケートの回答数が 78 件とまだ十分ではないので、引き続きアンケート調査を続けて、より多くの意見を聴取する予定である。

なおアンケートでも指摘された英語力の強化に関しては、平成 22 年度から英語のみで学位を取得できる大学院農学特別コースの設置にあわせて外国人教員を採用し、英語による提供科目を増やした。

また、専攻によっては、同窓会活動を通じて卒業生との意見交換を行って、その結果を授業内容の改善に取り込んでいるところもある。また現況研究動向をニュースレターで定期的に発行している分野もあり、返信メールの送付先をそのニュースレターの中に明記して課題研究の内容や成果に関する意見を求めている研究分野もある。

[分析評]

学外関係者の意見を聴取し、その結果を自己評価・点検に反映させる体制が整いつつある。

[資料]

○就職先アンケート用紙 ○四明会だより ○同窓会通信記録

7-4. 評価結果のフィードバックによる教育課程の見直し等の方策

学部で実施している「学生による授業評価アンケート」の結果は、それぞれの授業担当教員にフィードバックされ、教員はそれぞれ教育内容の改善に取り組んでいる。また全体のアンケート集計結果とそれに対する各学科長の総括意見が年度ごとに報告書としてまとめられ、全教員に配布されている。これにより、それぞれの教員に教育改善や見直しを検討する機会を与えている。同報告書は学部教務委員会における教育課程の検討資料にもなっているが、より深く検討できるように、平成 22 年度に設置された農学部 FD 委員会において、アンケート結果をどのように教育改善や教育課程の見直しにつなげていくかを検討する予定になっている。

一方、学生による授業評価とは独立して、常に学科・専攻教授会や学部・研究科教務委員会で教育課程の見直しを行っている。最近では、学部の研究内容を俯瞰できるような低学年向け科目の設置、情報処理教育の内容の見直し、人権教育のありかた等が教務委員会で議論され、一部の科目については内容の大幅改訂が実現した。

[分析評]

継続的に教育の質や内容に関する自己評価が行われており、そのフィードバックに基づいた方策が講じられている。

[資料]

○平成 21 年度授業評価アンケート報告書 ○平成 21 年度授業評価アンケート報告書に対する教員アンケート結果 ○農学概論Ⅱシラバス

7-5. 評価結果に基づく個々の教員の授業内容・教材・教授法の改善

学部で実施している「学生による授業評価アンケート」の結果は、それぞれの授業担当教員にフィードバックされており、授業評価アンケート結果に対する教員アンケートでは、7割の教員が、「授業やカリキュラムの改善で参考になる記述が多い」または「参考になる記述も多少見受けられた」と回答している。また、「授業の方法を変更する予定である」または「数年の結果をみて授業の方法等を検討する」と回答した教員も、ほぼ同数の7割であり、教員はそれぞれ教育内容・方法の改善に取り組んでいる。

今後、FD委員会において、個々の教員がどのように授業方法を改善したか、その結果どのような効果があったのかを調査・分析・報告する予定である。

なお、平成 21 年度に W100 大講義室（定員 324 名）の AV 設備を改修し、高照度のプロジェクターを設置して、パワー・ポイント等の電子データをより効果的に活用できるようにした。また、サテライト室（端末 57 台設置）以外の講義室においても、パソコン利用の講義が行えるように、ノート・パソコンを 80 台購入し、活用している。

[分析評]

個々の教員は、評価の結果を受けて授業内容や方法の改善に努めている。また、改善をサポートするための、AV 設備、パソコン等も、適切に設置されている。

[資料]

○平成 21 年度授業評価アンケート報告書 ○講義室設備一覧表

7-6. ファカルティ・ディベロップメントの適切な実施

平成 20、21 年度に全教員を対象とする農学部・農学研究科 FD ワークショップを実施した。また、ワークショップ時に今後取り上げるべきテーマについての希望調査も行い、教員のニーズを反映させるべく企画を練っている。

また大学院特別コースの開設にともない、担当教員のうちの希望者を対象とする英語研修を平成 21 年度に行った。

これらの FD 企画については従来、教務委員会が対応していたが、平成 22 年度から FD 委員会を設置し、独立して内容を検討することとなった。

[分析評]

ファカルティ・ディベロップメントは適切な形で組織的に実施されている。

[資料]

○平成 20 年度、21 年度 FD ワークショッププログラム

7-7. ファカルティ・ディベロップメントの授業改善等への効果

FD ワークショップ参加者に対するアンケート調査<表 7-1>では、取り上げられたテーマが適切で授業の改善のために役立ったとの回答が多く見られた。英語研修についてもきわめて好評であり、今後の教育の質の向上に大いに貢献するものと期待される。

[分析評]

制度化してからの期間が短いため、現状としては教育の質の向上や改善を具体的に把握するのは困難であるが、実施した FD ワークショップの内容は教員から高く評価されており<表 7-1>、効果は十分に期待できる。

7-8. 教育支援者や教育補助者の研修等

技術系職員については定期的に研修会が実施されている。

事務系職員に関する研修会は全学レベルで実施されている。また 9 月に開催された全学教育シンポジウムにおいても教育支援をテーマにした分科会が設置され、参加した職員の間で教育活動の質を向上させるための支援のあり方が議論された。

TA、RA については組織的な研修は行われていないが、日常的な教員との打ち合わせにより向上を図っている。

[分析評]

教育支援者、教育補助者に対する質の向上については、技術系職員の定期的な研修、シンポジウム等への積極的な参加が行われ、適切な取組みが行われている。

[資料]

○全学教育シンポジウム報告書 ○技術系職員研修会要項

〈表7-1〉平成21年度農学部・農学研究科FDワークショップアンケート集計表(H21.11.24実施)

所属	職名	開催時期				感想						希望するテーマ						
		適切	どちらとも言えない	不適切	無回答	大いに参考になった	参考に参考になった	どちらとも言えない	あまり参考にならない	得るものはなかった	無回答	授業法	研究指導法	成績評価学習評価	学生相談コミュニケーション	不登校成績不振悩み	就職指導	その他
農学	教授	5	1			1	4		1					1	2	4	2	
	准教授	2	1				2	1				1				1		
	講師	1						1										
	助教授	4	2	1	1	2	4	2				1		1	3	3	3	
	事務																	
	その他																	
	無回答																	
	計	12	4	1	1	3	10	4	1	0	0	2	0	2	5	8	5	0
森林	教授	7				1	5	1				3	2	3	4	3	2	1
	准教授																	
	講師																	
	助教授	1					1					1	1	1	1	1		
	事務																	
	その他																	
	無回答																	
	計	8	0	0	0	1	6	1	0	0	0	4	3	4	5	4	2	1
生命	教授	3	1	1			5					2			2	3		1
	准教授	1	3	1	1	1	5					2	2	4		2		
	講師																	
	助教授	6	3			1	8					2	3	2	3	4	2	1
	事務																	
	その他																	
	無回答																	
	計	10	7	2	1	2	18	0	0	0	0	6	5	6	5	9	2	2
生物	教授	5	1			1	5					2	1	2	2			
	准教授	1	1				2					1		2	1			
	講師																	
	助教授	4				1	3					2	2	2	1	1		
	事務																	
	その他																	
	無回答																	
	計	10	2	0	0	2	10	0	0	0	0	5	3	6	4	1	0	0
地域	教授	5				1	3				1	1	3	2	1	2		
	准教授	4	1		1	1	2	1		1			3	1		2		
	講師	1					1					1	1					
	助教授	5	2			7						2	3	3	1	2		
	事務																	
	その他																	
	無回答				1				1									1
	計	15	3	0	1	9	6	1	1	1	1	4	10	6	2	6	0	1
経済	教授	1					1					1						1
	准教授																	
	講師																	
	助教授	1						1							1	1		
	事務																	
	その他																	
	無回答																	
	計	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0
食品	教授	1	1	1			2	1						1	1	1		
	准教授	2	1		1		4					1		4				1
	講師																	
	助教授	6				3	3					1	3	1	3	4	1	
	事務																	
	その他																	
	無回答																	
	計	9	2	1	1	3	9	1	0	0	0	2	3	6	4	5	1	1
他部局	教授																	
	准教授																	
	講師																	
	助教授																	
	事務																	
	その他																	
	無回答																	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	教授	1	1				1			1								
	准教授																	
	講師																	
	助教授																	
	事務																	
	その他																	
	無回答																	
	計	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	教授																	
	准教授																	
	講師																	
	助教授																	
	事務																	
	その他																	
	無回答																	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全所属	教授	28	5	2	0	4	26	2	1	1	1	9	6	9	12	13	5	2
	准教授	10	7	1	2	2	15	2	0	1	0	5	5	11	1	5	0	1
	講師	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
	助教授	27	7	1	1	14	19	3	0	0	0	9	12	10	13	16	6	1
	事務	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	67	19	4	4	20	61	8	2	2	1	24	24	30	26	34	11	5